

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月12日
函館市立戸井幼稚園・戸井学園

1 本年度の重点教育目標

「未来を創る戸井の子」
戸井学園：「共創力の育成（Try・Open・Image）」
戸井幼稚園：「一人一人がよさを発揮し 自己充実に向かう」～一人一人が喜んで遊び、自己を充実させていくために～

2 本年度の取組の重点

- ①学習指導要領及び幼稚園教育要領に基づく12年間を見通した教育課程の編成
- ②幼稚園・戸井学園の教員の指導の連携
- ③知・徳・体・意の調和のとれた教育活動の推進
- ④学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくり
- ⑤幼小中一貫教育に向けた教育活動の具体的推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①教育課程（教育内容を示した教育計画）	幼稚園・戸井学園とも12年間を見通し「未来を創る戸井の子」を目指した教育ができたか。	b	架け橋期における、それまでの育ちを緩やかに資質・能力の成長につなげていく横断的な学びを実現するカリキュラム作成に向け、内容の精選を一層図っていく。	A9	A9	10の姿の自然や社会との関わり・非認知能力の主体性などは日常生活、遊び、学習、地域との交流で自然に身につけていると感じます。
	幼稚園・戸井学園の連携した活動に取り組めることができたか。	a	園児と児童生徒による活動の機会をはじめ、職員間の話し合いや合同研修、さらには、保護者間の交流が活発化した。	A8 C1		
②指導連携	学習面・生活面を中心とした幼稚園・戸井学園間での連携ができたか。	a	発達の多様性をふまえ、情報の共有を重視し、スムーズな接続に向け、個に応じた細やかな支援を心がけた。	A8 B1		
	指導力向上のため、互いの授業を見合うなどの活動を進めることができたか。	b	子どもの育ち学びを中心に、「10の姿」や「非認知能力」の育成など今後も校種間の特色を理解し合う交流をさらに進める。	A8 B1	A7 B2	
③調和のとれた教育活動の推進	「生きる力」を育む教育が計画・実施できたか。	a	園・ステージごとのめざす子ども像の設定から知・徳・体・意を育む調和の取れた指導計画・支援を進めることができた。	A8 B1		
	子どもたちの未来を見据えた進路学習を目指し、地域に根ざした学習を実施できたか。	a	園・学校をコミュニティの拠点とした地域の資源や人材の活用を推進し、地域と一体となって子どもたちの健やかな育成に貢献できた。	A7 B2		
④一体となった教育環境づくり	各種教育活動に、家庭・地域の人々や環境を最大限に活用できたか。	b	家庭をはじめ地域に広く活動を紹介し、交流の機会を丁寧に積み重ね、持続可能な連携を今後も模索していく。	A8 B1	A6 B3	
	学校運営協議会を活かした取組で、家庭・地域と一体となった学校運営ができたか。	a	会の機能を活かし、多くの人材や機関とつながり、連携を図った取組ができた。	A8 B1		
⑤幼小中一貫教育の推進	12年間の連続性を重視した「つなぐ」（人・学び・異校種のつながり）教育活動を展開できたか。	b	各校種の特色と発達の理解に立った上で架け橋プログラムの作成を推進し、横断的な学びのスタイルを創りあげる。	A8 B1	A7 B2	
	幼稚園・戸井学園における業務改善に向けた取組を進めることができたか。	b	今後もお互いの校種間の特徴や強みを活かしながら補完的な業務改善に取り組む。	A8 B1	A8 B1	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

